

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち
節名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成
施策名	6-体力の向上と学校体育活動の推進

施策の内容	目指す姿	子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。 ● いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向けた組織的な取組を一層推進します。 ● 児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするためには、教職員だけの対応ではなく、各種支援員・相談員、保護者、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。 ● 今後の共生社会の実現に向けて、引き続き人権教育の充実推進に取組めます。 ● 子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあると言われていることから、引き続き小・中学校において体力向上のための運動の習慣づくりに取組めます。 ● 児童生徒の健康の保持・増進では、心の健康対策の充実を図ります。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)					
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	271	56	0	0	0	56

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100％）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70％）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30％）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・「伊奈町立中学校の部活動地域移行検討委員会」を設置し、2回会議を開催した。 ・検討委員会に先立ち、先進地視察や町内3中学校長からの情報収集、2回の準備会を行った。 ・広報いなにおいて特集を組み、部活動地域移行について周知を図った。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示され、学校において教員が顧問を務めている学校部活動について、地域の方に指導者を務めてもらう地域クラブ活動へ移行することとなった。併せて、まずは休日における取り組み、地域の実情に合わせて段階的に移行していく方針が示された。
	住民ニーズの変化について	・生徒が活動する機会が損なわれないかの心配がある一方、学校における教員の勤務状況に対して改善の必要があるとの理解が進んでいる。
	展開した事業は適切であったか	・県内の先進地である白岡市や戸田市、隣接市である上尾市の状況について情報収集するとともに、3中学校長や教員の代表から学校現場の意見を聞くとともに、民間団体の代表からも意見を聞き進めることができた。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで教員が担ってきたことを地域で行うため、指導者の確保や指導者への報酬として予算の確保が必要となる。 ・指導者への研修や出欠管理など、生徒の専門的な知識やノウハウが必要となる。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度までを活動環境整備期間とし、実証事業を行い活動環境の整備を進めていく。 ・令和8年度から令和10年度までを目途に実証事業を行いながら、地域クラブ活動を段階的に拡大し、定着を図っていく。
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	・学校と地域が連携して、子どもたちがスポーツや文化に触れる新たな形を検討した。
----------------------	---

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策名	1-家庭教育支援体制の充実

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育の講座については、各校のPTA に委託していますが、運営の担い手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。 ● 生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となっており、継続的な活動に支障をきたしていることから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取り組めます。 ● 防災キャンプに関わるボランティアのあり方について検討します。 ● 今後の学校・家庭・地域の連携を深める新たな取組について検討します。 ● 学校運営の改善をより一層推進するために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。 ● 学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図っていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	家庭教育学級の実施回数	10回
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	2回	12回	11回	13回	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
	542	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
		437	0	0	0	437

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100％）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70％）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30％）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・町立中学校2校と町PTA連合会の3団体が家庭教育学級を実施し、計13回開催した。 ・就学時健診時に併せて実施していた「親の学習子育て講座」は、健診実施方法の変更（保護者引率）に伴い中止となったため、対象保護者へ子育てに関する資料を配付した。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・南部および中部地区は少子化は落ち着いているが高齢化が進んでいる。北部地区は子育て世代の転入が落ち着き、年々児童・生徒数が大幅に減少している。
	住民ニーズの変化について	・各校PTAにおいて組織の改善(スリム化)を積極的に行うことで運営の効率化が図られている。
	展開した事業は適切であったか	・昨年よりも講座が増え、受講者にとっては参加しやすい環境を提供できた。
	施策を達成するうえでの障害について	・共働きの家庭については、平日の参加が難しい。

次年度以降における施策の具体的な方向性	・多くの方が参加しやすい事業展開を目指し、土日や夜間の開催等、開催方法を検討していく。
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	・各小中学校PTAが家庭教育学級を町PTA連合会に委託し、事業の効率化が進んだ。
----------------------	--

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔・輝くまち
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策名	2-地域の教育力の向上

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育の講座については、各校のPTA に委託していますが、運営の担い手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。 ● 生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となっており、継続的な活動に支障をきたしていることから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取り組めます。 ● 防災キャンプに関わるボランティアのあり方について検討します。 ● 今後の学校・家庭・地域の連携を深める新たな取組について検討します。 ● 学校運営の改善をより一層推進するために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。 ● 学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図っていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	成人式(伊奈町二十歳の集い)の出席率	75.5%
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	66.8%	77.0%	68.3%	78.5%	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,569	1,473	0	0	0	1,473

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度の理由 （施策に対する今年度の実績及び効果）		・「伊奈町二十歳の集い」を来賓・恩師を招いて1会場・2回で開催した。二十歳を祝福するとともに、二十歳になる者が、社会の一員として権利・義務の責任ある行使と独立した個人としての誇りをあらためて認識する良い機会となった。該当者571名に対し、448名の出席であった。 ・社会教育関係4団体（町子ども育成会連絡協議会、ボーイスカウト伊奈第1団、町青少年相談員協議会、町青少年健全育成推進協議会）においては、積極的に屋内外活動を実施した。 ・町地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会では、環境浄化部会、広報部の活動を行った。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・対面による青少年健全育成活動を行っている。
	住民ニーズの変化について	・二十歳の集いでは、保護者の観覧希望の意見が増えている。
	展開した事業は適切であったか	・二十歳の集い実行委員会の開催時期を早め、実行委員の意向を確認したうえで、1会場2回開催で計画通り実施した。
	施策を達成するうえでの障害について	・青少年健全育成活動の担い手が減少傾向にある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・二十歳の集いにおいて実行委員が主体的に活動できるよう支援し、記念事業の見直しを図っていく。 ・町地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会が青少年にかかわる内容のアンケートを、児童・生徒に実施した調査結果を町民に広報し、子どもたちへの理解を深めるための一助とする。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・二十歳の集いの記念事業を工夫し、極力予算の削減に努めた。 ・社会教育関係4団体の活動実績や会員数の減少などを勘案し、さらなる補助金の減額を行った。
----------------------	---

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔・輝くまち
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策名	3-学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

施策の内容	目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育の講座については、各校のPTA に委託していますが、運営の担い手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。 ● 生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となっており、継続的な活動に支障をきたしていることから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取組めます。 ● 防災キャンプに関わるボランティアのあり方について検討します。 ● 今後の学校・家庭・地域の連携を深める新たな取組について検討します。 ● 学校運営の改善をより一層推進するために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。 ● 学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図っていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	WaKu楽体験教室	300人
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	74人	60人	205人	283人	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	542	437	0	0	0	437

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・放課後子供教室は4年ぶりの開催となり、4小学校で学期ごと1回ずつ、計12回開催し、延べ179名の参加であった。	
		・子供防災教室は町内在住の小学4～6年生6名が参加し、埼玉県防災学習センターで地震体験や煙体験、暴風体験などを通して、防災意識を高めることができた。 ・土曜日に小学生を対象に開催しているWaKu楽体験教室は、コロナ禍により定員が半分以上となっていたが徐々に定員を増やし、19教室30講座開催し、延べ283名の参加であった。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・昨年度は、調理を伴う講座では飲食不可とし持ち帰りとしたが、令和5年度は飲食可とした。
	住民ニーズの変化について	・小学生対象のWaKu楽体験教室に低学年の子どもが参加した際、保護者(親)の参観希望が増加し続けている。
	展開した事業は適切であったか	・WaKu楽体験教室は昨年度より多くの教室を計画し、適切に実施できた。
	施策を達成するうえでの障害について	・集客を要する事業・教室等を実施するためには、開催場所となる学校や講師となる地域の方々の理解と協力が不可欠である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の後にいただいているアンケート結果を精査し、新規事業に採用していく。 ・SNSを活用して情報発信を行い、参加者の増加につなげる。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	・SNSを活用し、情報発信を積極的に行うことにより、事業を効果的に進めている。
----------------------	---

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔_輝くまち
節名	第6節_生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興
施策名	1-学び合いの生涯学習の推進

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習を楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに生かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が深まっています。郷土愛が育まれ、自ら学び地域社会に貢献する人材が育っています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校開放講座については、人気がある講座は継続的に行っていますが、参加者数が減少傾向にあることから町民のニーズに対応した満足度の高い多様な講座の開催を検討します。 ● 本格的な高齢社会に向けて、生涯学習は高齢者の社会参加・生きがい対策として重要な取組となることから、引き続き指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取組めます。 ● 文化・芸術に関するイベントについては、引き続き実施していくとともに、参加者や町民のニーズと観光との連携を含めた新規取組について検討します。 ● 高齢化の影響もあることから、指導者の確保の充実に努めます。 ● 町民の文化財に対する理解をより深めるとともに、町の魅力を多くのの人に知ってもらえるよう、地域の文化財をしっかりと調査し、体験型イベント等の実施や広域圏での企画など、文化財を活用した取組を検討します。 ● 伊奈氏屋敷跡を保存・継承した上で観光とタイアップしたさらなる活用を図ります。 ● 将来の町史編さんのために、必要な行政文書は廃棄せず、歴史公文書として保存・活用します。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	学校開放講座の参加者満足度(理解度数)	65.0%
	(2)	人口1人当たりの貸出冊数	5.50冊
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	85.1(75.3)%	89.6(60.3)%	80.6(60.0)%	94.5(68.2)%	
	(2)	2.83冊	3.35冊	3.88冊	3.95冊	
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	142,035	143,487	0	0	0	143,487

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・町内の教育機関と連携した学校開放講座は、15講座を実施し、延べ参加者数は434人であり、満足度は94.5%であった。定員の5倍の申込があった講座もあり、魅力的な講座を開催することができた。	
		・パソコン寺子屋については、パソコンを楽しく学ぶ場であり、疑問を安心して質問できる場であるだけでなく、住民同士の交流の場となっている。（43回開催、延べ参加者数304人）	

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・町内の教育機関と連携した学校開放講座は、15講座を実施し、延べ参加者数は434人であり、満足度は94.5%であった。定員の5倍の申込があった講座もあり、魅力的な講座を開催することができた。	
		・パソコン寺子屋については、パソコンを楽しく学ぶ場であり、疑問を安心して質問できる場であるだけでなく、住民同士の交流の場となっている。（43回開催、延べ参加者数304人）	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・スマートフォンやタブレットの普及により、パソコンを使用せずに手軽にインターネット環境にアクセスできるようになったことで、講座などへの申込も、インターネットを利用したものが増えている。
	住民ニーズの変化について	・高齢化によりサークル等団体の運営が難しくなってきた。高齢者の社会参加・生きがいづくりとして、学習の場や学習成果を発表する場を充実させる必要がある。
	展開した事業は適切であったか	・公民館講座や学校開放講座のアンケートでは、高い満足度となっている。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルなどの団体に若年層も参加してもらえる仕組みづくりをする必要がある。 ・非接触型の電子図書館利用率を上げるため、広く周知する必要がある。 ・多様化・高度化するニーズを適切に把握し、事業の検討につなげる必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい活動センター及び図書館は、施設の経年劣化に対する適切な補修やメンテナンスを事業計画通りに進めていく。 ・各種講座のアンケート結果や他市町村の事業事例を精査・研究し、事業内容や安全対策に活用していく。 ・生涯学習課が中心となって私立学校、公立学校と協力し、講座や教室の運営や応募方法など、参加者・応募者の利便性の向上について検討していく。 ・産・学・官が連携して生涯学習の場を提供できる体制の整備を行っていく。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい活動センター及び図書館においては、民間のノウハウを活用しつつ利用者へのサービス向上と経費の節減等を目的に、指定管理者制度を引き続き運用していく。 ・各種講座や教室などは、広報いなやホームページ、LINEやFacebook、いなナビ・XなどのSNSを活用して、積極的に情報発信を行う。
----------------------	---

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔・輝くまち
節名	第6節_生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興
施策名	2-文化芸術の振興と伝統文化の継承

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習を楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに生かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が深まっています。郷土愛が育まれ、自ら学び地域社会に貢献する人材が育っています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校開放講座については、人気がある講座は継続的にっていますが、参加者数が減少傾向にあることから町民のニーズに対応した満足度の高い多様な講座の開催を検討します。 ● 本格的な高齢社会に向けて、生涯学習は高齢者の社会参加・生きがい対策として重要な取組となることから、引き続き指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取組みます。 ● 文化・芸術に関するイベントについては、引き続き実施していくとともに、参加者や町民のニーズと観光との連携を含めた新規取組について検討します。 ● 高齢化の影響もあることから、指導者の確保の充実に努めます。 ● 町民の文化財に対する理解をより深めるとともに、町の魅力を多くのの人に知ってもらえるよう、地域の文化財をしっかりと調査し、体験型イベント等の実施や広域圏での企画など、文化財を活用した取組を検討します。 ● 伊奈氏屋敷跡を保存・継承した上で観光とタイアップしたさらなる活用を図ります。 ● 将来の町史編さんのために、必要な行政文書は廃棄せず、歴史公文書として保存・活用します。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	伊奈町美術展覧会観覧者数	500人
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	未実施	未実施	356人	431人	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,440	1,412	0	0	0	1,412

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100％）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70％）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30％）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・学習成果を発表する場として、伊奈町総合文化祭を11月11日・12日の2日間にわたり開催した。コロナ禍は自粛していた模擬店の出店を再開し、賑わいを見せた。 ・第49回伊奈町美術展覧会を10月24日から10月29日の6日間にわたり開催し、79名・104点の出品があり、431人の観覧者があり、町の文化芸術の向上に寄与した。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・伝統芸能を継承する若者が減少しており、団体の存続が危ぶまれている。
	住民ニーズの変化について	・健康増進・趣味・教養に関する講座や教室に対し、カルチャースクールのような質の高いものを求める傾向にある。 ・流行や関心ごととは流動的であるので、住民ニーズの把握に努め事業を企画する必要がある。
	展開した事業は適切であったか	・総合文化祭では模擬店の出店を再開し、参加者及び来場者にとても喜ばれた。
	施策を達成するうえでの障害について	・各団体構成員の高齢化と会員の減少が進んでおり、若者参加と後継者育成が課題である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	・事業後に参加者からいただいたアンケートを精査し、次年度以降の事業の改善に活用していく。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	・総合文化祭や町展は、関係者と連携・協働を深め、事業を効果的に進めた。
----------------------	-------------------------------------

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔・輝くまち
節名	第6節_生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興
施策名	3-文化財及び町史資料の保護・保存・活用

施策の内容	目指す姿	生涯にわたり学習を楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに生かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が深まっています。郷土愛が育まれ、自ら学び地域社会に貢献する人材が育っています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校開放講座については、人気がある講座は継続的に行っていますが、参加者数が減少傾向にあることから町民のニーズに対応した満足度の高い多様な講座の開催を検討します。 ● 本格的な高齢社会に向けて、生涯学習は高齢者の社会参加・生きがい対策として重要な取組となることから、引き続き指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取組みます。 ● 文化・芸術に関するイベントについては、引き続き実施していくとともに、参加者や町民のニーズと観光との連携を含めた新規取組について検討します。 ● 高齢化の影響もあることから、指導者の確保の充実に努めます。 ● 町民の文化財に対する理解をより深めるとともに、町の魅力を多くのの人知ってもらえるよう、地域の文化財をしっかりと調査し、体験型イベント等の実施や広域圏での企画など、文化財を活用した取組を検討します。 ● 伊奈氏屋敷跡を保存・継承した上で観光とタイアップしたさらなる活用を図ります。 ● 将来の町史編さんのために、必要な行政文書は廃棄せず、歴史公文書として保存・活用 に努めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	指定文化財の数	25件
	(2)	体験型イベントの参加者数	100人
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	22件	22件	22件	24件	
	(2)	未実施	120人	105 人	75人	
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位;千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	9,698	9,442	1,636	0	417	7,389

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・「小室小学校のアカマツ」と「清久氏銘のある板碑」を町指定文化財に指定した。	
		・本上遺跡発掘調査を行った。	
		・平成30年度に実施した発掘調査について、発掘調査報告書刊行のための出土遺物整理作業を行った。	
		・伊奈氏屋敷跡において保存目的の発掘調査を行った。現地説明会には34人が参加した。	
		・郷土資料館におけるまが玉作り体験や企画展「田口善国氏生誕100年記念」の実施により、郷土資料館の役割などを広く周知し、文化財に対する興味・関心を得られた。	
		・町内に残る文書の調査及びマイクロフィルム撮影及びデジタル化を行った。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地内における開発に伴う試掘調査件数は横ばいとなっている。 ・伊奈氏関連事業の展開により、伊奈氏及び伊奈氏屋敷跡の認知度が高まっている。 ・世代交代や住宅の建て替えによる資料寄贈の依頼が微増している。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館の展示内容(展示品)の充実、パンフレットを希望する問合せが増加している。 ・伊奈氏や伊奈氏屋敷跡についての歴史や遺構の問合せが増え続けている。 ・伊奈氏屋敷跡の現状を活かして、遺構がわかりやすく、見やすくなるような見学環境を整えてほしいという要望が寄せられている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈氏関連事業への参加者も多く、伊奈氏や伊奈氏屋敷跡について認知度を高めることができた。 ・文化財の調査を行い、町指定にすることができた。開発に伴い消滅する遺跡において発掘調査をすることで記録を保存することができた。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・町史編集事業の過程で収集した資料や寄贈資料、出土遺物などが増加しているが、資料の整理・調査は進んでいない。また、保管場所や展示場所が不足している。 ・公文書を歴史的資料として保存するための枠組みが整備されていない。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈氏屋敷跡の保存・整備・活用をより具体的に定める計画の策定を見据え、「伊奈氏屋敷跡保存活用計画」を基にした継続的な発掘調査等の各種調査を行う。 ・過去の発掘調査で出土した遺物の再整理(報告書の刊行含む)を実施する。 ・町立郷土資料館所蔵資料の整理作業場所、保管場所を確保する。 ・『文化財保存活用地域計画』の策定を見据え、未指定を含めた文化財の調査を行う。 ・伊奈町・川口市・つくばみらい市「伊奈氏ゆかりの地」歴史・文化的交流に関する協定に基づく調査を行う。 ・公文書を歴史的資料として保存するための枠組みを整備し、資料の散逸を防止する。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈町の地理・自然・歴史あるいは町内所在の文化財などについて、もっと知りたいという住民のニーズに応えるため、資料の収集・整理、保存・調査、公開・活用を進めているところではあるが、より効果的・効率的に進めていく必要がある。
----------------------	---

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔_輝くまち
節名	第7節_スポーツ及びレクリエーション活動の推進
施策名	1-スポーツを通じた元気なまちづくり

施策の内容	目指す姿	生涯にわたりスポーツを楽しむ環境が整っており、まちづくりや地域活動などに生かされています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 軽スポーツなど誰でも参加できるスポーツイベント等を開催するとともに、「スポーツ都市宣言」(昭和57 年)から40 年目を迎えることから、記念イベントについて検討します。 ● 各種スポーツ教室を通して、町民の健康づくりのサポートに努めます。また、種目については、住民のニーズに対応するよう検討します。 ● スポーツ・レクリエーションの活動団体によっては、会員の減少、後継者不足が課題となっているため、魅力ある事業の企画立案、具現化に努め、会員の確保、後継者の育成に取り組めます。 ● スポーツ施設は、屋内・屋外とも引き続き計画的な改修や用地の確保、暑さ対策に取り組めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	町スポーツ施設の利用者数	320,000 人
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	211,925人	295,841 人	280,800人	263,337人	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	15,676	14,752	0	0	3,426	11,326

今年度の 施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100％）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70％）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30％）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）	・真夏の暑さや豪雨等の天候の変化、新型コロナウイルス感染症5類への移行に応じた施設運営ができた。		
	・施設備品等、劣化している箇所が多くなってきているが、修繕することにより、利用者に対し、安全で快適なスポーツ活動の場を提供することができた。		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の施設や備品等の多くが古くなっているため、早急修繕と計画的な更新が必要となっている。 ・誰もが安心して活動できるスポーツ施設の提供が必要となっている。 ・施設の予約、利用料の支払いについて利便性を求められている。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の充実を求める声が増えてきている。 ・各年代の方々が楽しめるスポーツ教室等の開催や内容の検討が求められている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な施設運営ができた。 ・開催した各教室において応募者が十分におり、すべて実施できた。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設や予約システムにおいて、利用者から不具合や不便さについて要望があるため、充実した事業を展開するには、施設ごとにおける住民ニーズにあった施設整備の更新や整備が必要である。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の維持管理等を計画的に進める。 ・利用者のニーズに応じた安全な施設運営を行う。 ・近年、ジョギングロードの損壊が増えていることから、見回りを行い、損壊箇所の早期発見と迅速な修繕を行う。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設点検や利用者からの情報提供により、限られた予算の中で優先順位を決め、適切な維持管理を行っている。
----------------------	---

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て、はじける笑顔 輝くまち
節名	第7節_スポーツ及びレクリエーション活動の推進
施策名	2-スポーツ・レクリエーション事業の充実

施策の内容	目指す姿	生涯にわたりスポーツを楽しむ環境が整っており、まちづくりや地域活動などに生かされています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none">● 軽スポーツなど誰でも参加できるスポーツイベント等を開催するとともに、「スポーツ都市宣言」(昭和57 年)から40 年目を迎えることから、記念イベントについて検討します。● 各種スポーツ教室を通して、町民の健康づくりのサポートに努めます。また、種目については、住民のニーズに対応するよう検討します。● スポーツ・レクリエーションの活動団体によっては、会員の減少、後継者不足が課題となっているため、魅力ある事業の企画立案、具現化に努め、会員の確保、後継者の育成に取り組めます。● スポーツ施設は、屋内・屋外とも引き続き計画的な改修や用地の確保、暑さ対策に取り組めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	町スポーツ施設の利用者数	320,000人
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	211,925人	295,841人	280,800人	263,337人	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	4,478	4,031	0	0	0	4,031

今年度の 施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・町が主催する各種スポーツ教室、各種イベントを実施し、スポーツに関わる機会を提供することができた。各スポーツ、レクリエーション団体の活動に対してサポートを行うことができた。 ・また、友好都市である茨城県つくばみらい市と町内のスポーツ少年団及びグラウンドゴルフの団体が交流を行うことができた。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、住民のイベントへの参加意欲が高まってきている。
	住民ニーズの変化について	・各年代の方々が楽しめるスポーツ教室等の開催や、子どもから大人まで誰でも気軽に参加できるスポーツイベントが求められている。
	展開した事業は適切であったか	・町主催の各種事業は開催することができ、好評であった。 ・各スポーツ、レクリエーション団体の活動のサポートを行うことができ、スポーツを楽しむ環境を維持することができた。
	施策を達成するうえでの障害について	・指導者不足により開催できる教室が限られてきている。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none">・町主催のスポーツイベントについては、関係団体と連携して事業内容の検討を図る。・スポーツフェスティバルについては、午前を実施する地区対抗種目及び午後を実施するニュースポーツ体験と体力測定を実施するが、継続して見直しを検討していく必要がある。・つくばみらい市とスポーツを通じた交流を行う際は、関係団体と調整を行うとともに、スポーツを楽しみながら、交流を深める機会を提供していく。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	・スポーツを楽しむ環境を提供することができた。各スポーツ、レクリエーション団体の活動に対してサポートを行うことができた。また、スポーツフェスティバルについて、幅広い年代が楽しむことができるよう工夫をして開催している。
----------------------	--

令和5年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第5章_共につくる_未来につながるまち
節名	第5節_人権尊重と平和意識の啓発推進
施策名	1-人権・同和教育啓発の推進

施策の内容	目指す姿	誰もが互いの人権を尊重し、自分らしく生きる社会が形成されています。また、平和意識が世代を超えて継承されています。
	今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権意識の高揚を図り、人権啓発、人権教育の推進が必要であり、平成28年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されるなど、人権に関する様々な法整備も進められており、一層の取組に努めます。 ● 人権講座は平成29年度まで平日昼間に開催していましたが、参加可能な層が限られてしまうことから、平成30年度より夜間・休日も開催しました。今後も開催日時や講師選定、周知方法などについても工夫し、多くの町民が参加できるように努めます。 ● 人権相談については、高齢者・外国人・LGBTなどの性的マイノリティなどに関する相談が増加してくることが考えられることから、相談体制を充実させ、新たなニーズに対応します。 ● 平和学習の内容は、次世代を担う子どもや町民に戦争の悲惨さを認識してもらえるものとし、平和に対する意識の啓発に努めます。

まちづくり目標値	指標名		目標(令和6年度)
	(1)	人権講座等への参加人数	400人
	(2)		
	(3)		
	(4)		

成果指標の推移		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	(1)	実績なし	74人	68人	134人	
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	956	774	0	0	0	774

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・児童生徒が異年齢間の交流を行うことで他人を尊重する意識を醸成させることを目的としたフレンドシップセミナーについては、障害福祉サービス事業所「kauri」の協力を得、ひょうたんランプづくりを通して人権感覚を磨く事業を実施することができた。人権講座については、同和問題やヤングケアラー、ジェンダーを取り上げ、3回の内容で開催した。	
		・全戸配布している人権教育広報紙「みどり」については、人権講座の実施報告や児童生徒の人権標語の作品及び人権啓発DVDの紹介を掲載し、人権課題をより身近なものとして捉える機会を提供できるよう努めた。	
		・町内の小中学生に自分の人権だけでなく、周りの人の人権についても大切なことに気づき、考えてもらうため、人権標語を募集し、優秀作品をポスターにして、各地区の集会所や関係機関に掲示した。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の人権に対する意識は高まりつつあるが、人権に関する問題は多様化している。 ・住民の生活様式の多様化が進んでいる。
	住民ニーズの変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題が多様化していることから、新たな知識を得たいというニーズが高まっている。
	展開した事業は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講座においては、台風の影響を受け日程を変更する措置をとって実施することができた。
	施策を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・生活様式の多様化による幅広い人権問題に対応した講座の企画内容を研究していかなければならない。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況や自然災害が起きた際でも柔軟に対応して事業を実施できるよう対策を講じるとともに、社会情勢の変化に応じた事業を展開していく必要がある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講座では、これまでの参加者アンケートを参考にしながら、社会情勢の中で問題となるタイムリーな人権問題について幅広く取り扱う。 ・人権講座等の人権啓発事業は、より多くの参加者を得られるよう、引き続き広報紙やホームページへ掲載するほか、案内チラシやポスターの作成を行う。若年層の参加を増やすため、伊奈町公式LINEやFacebook、いなナビなどを積極的に活用する。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講座では、これまでの参加者アンケートを参考に人気の高いテーマを取り入れている。また、多くの方に参加してもらえるよう、より町民ニーズに合った講座になるよう検討する。 ・人権標語ポスターや啓発品等の作成数、人権啓発広報紙の掲載記事を凝縮し、コストの見直しを図っている。 ・人権啓発事業においては様々なツールを用いて情報発信に努めている。
----------------------	---